

博報堂 DY ホールディングス

2023 年 3 月期 通期 連結決算説明会 質疑応答集

2023 年 5 月 12 日（金） 15:00～16:00

説明者：

代表取締役社長	水島 正幸
取締役副社長	矢嶋 弘毅
代表取締役専務執行役員	西岡 正紀
取締役専務執行役員	江花 昭彦
執行役員	禿河 毅

- ・ 2024 年 3 月期の計画について、トップラインが市場成長を上回る伸びとなっているが、種目別・業種別に見通しを教えてください。

現時点では、国内広告市場は前年比 1%強のゆるやかな伸びを想定している。

種目別の状況は、前年から大きくは変わらず、4 マスメディアは、ゆるやかな減少傾向が継続すると考えている。

足元のテレビスポット需要は堅調だが、デジタルシフトが続いており、通年では維持もしくはやや前年を下回ると想定している。

インターネットメディアは、成長率が鈍化傾向ではあるが、前年からの成長は続いており、テレビなどほかのメディアと比較すると相対的に堅調という状況が続くと考えている。また、国の地方創生への取り組みなどで、地域経済が成長する中で、デジタル化が遅れていた地方のインターネットメディア市場が拡大することを期待している。スタートアップ企業の台頭も含めたロングテール市場の伸びにも期待しており、前年 M&A を行ったソウルドアウトを中心に、扱い拡大が可能であると考えている。第 1 四半期はソウルドアウトの（ケミカルな）押し上げ影響もあり、グループ全体のインターネットメディアの売上高は、前年同期比で 2 桁の成長を目指している。

アウトドアメディアやプロモーションは、行動制限の緩和に伴い、拡大していくと考えている。

業種別では、原材料価格高騰の影響を大きく受ける、食品、飲料、化粧品・トイレタリー業種は前年に引き続き、慎重な姿勢がみられる。

一方で、自動車業種は、半導体不足の解消、納車遅れによる需要の積み上がり、円安の恩恵による業績回復、EV への移行などもあり、マーケティング投資が盛んになっていくと考えている。金融・保険、各種サービス業種も堅調と見ている。交通・レジャー業種は旅行支援などにより活況となっている。インバウンド関連では、中国からの旅行者の増加の影響もあり、薬品業種などが回復の恩恵を受けている。また、マスクを外されている方も増えてきたが、化粧品など美容系商品のニーズも高まっている。巣ごもり需要で盛り上がっていた

EC やアプリサービスなどは、特需は一段落しているものの、コロナ環境下で根付いたライフスタイルが残ると考えており、今後も成長が見込まれる。アルコール飲料は、秋に税制改正が控えており、各社基幹ブランドのシェア獲得競争に注力すると考えられる。

- ・ 次の中期経営計画についてのヒントを示唆いただきたい。現在の見直し後の中計では、基盤整備のための戦略投資を強化されていたが、本年度をもって完了とみていいのか、今後も基盤整備は続くのか、戦略投資の考え方についても教えてほしい。

次期中計に関しては、検討開始段階のため、現時点ではお答えするのは難しいが、現在の中計期間で投資をしている分野に関しては、確実に刈り取りができるような形を考えている。また、戦略投資については、現在の中計期間のみで終了するものではなく、今後も継続することを想定している。

まずは、現在の中計の目標を達成することに邁進する。

以 上